慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	コオトシィアタア
Sub Title	
Author	小山内, 薫
Publisher	三田学会
Publication year	1909
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.1, No.5 (1909. 6) ,p.645(103)- 662(120)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19090601-0103

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

是乎世人は曰く斯の如きは之れ價値は勞力のみに依りて決せらるゝものにして他の何物も之を決するの力なしとの定則の不完全なるを示すものにあらずして何ぞやと。

常識より來る駁論は恐く此所に止まらん然れども吾人は是よりして更らに怖る可き抗論に到達し得るなりマルクスは三個の經濟階段を研究して能く其相互の間に存する相違を指示すると共に各階段は一事に於て相共通すとなし社會の多數を占むる勞働者がマルクスの言を借りて云へば勞働者を壓迫し掠奪するの外更らに他の能事なき少數者の爲めに支配せらるとの事實を擧げたるは既述の如し若し斯る事實にして過渡的のもの稀有的の現象ならんか其理由を擧げてマルクスが特殊なる一國の歷史に就きて擧示せるが如き偶然なる事情に歸し得可しと雖事實は卽ち其然らざるを證するなり蓋し奴隸制度を經て今日に至る間に於て凡の文明國の社會は幾度か解體し幾度か再造せられ變遷を重ねたれども少數者が多數者たる勞働者を支配するの此事實は何時の世如何なる社會にも行れて變ずるとなかりしが故なり勿論少數者は其間に於て其動行を變ぜり然れども此事實は以て彼等が常に支配者たるの地位に立ちたるの事實を否定し得可きにあらず顧ふに斯る一般的事實に對しては亦た一般的原因の存するなくんばあらざるなり然らば其一般的原因は何ぞや問ふて此處に至ればマルクスの科學は默々として啞者の如きなり

次に上述の問題の如く然かく重要ならずとするも然かも直ちに吾人の視聽を劫かし來る問題を擧ぐれば卽ち左の如し。

資本主義が主たる制度となりしより以來卽ち十八世紀の中葉以後富の生產が未曾有の增加をなせるの事實はマルクスを初め凡の社會主義者の認め且つ主張する所なり然るに資本主義の確立とは生產者と生產用具との分離の完成を意味すとはマルクスの與ふる定義なり故に吾人は富の生產は生產用具と生產者との分離が完成するに從ひて增加せりと云ひ得可きなり然るに亦た勞力こそ富の唯一

實の生產者たるなれとはマルクス等の說く所なるが故に結局吾人は勞働者の生產力は彼等と生產用具との間の分離が完成せる比に應じて增加せりとの結論を演釋し得可し此結論は何によりて說明せらるゝやマルクスは曰く資本は日に益々大となり行く而して此資本は勞働生產物の剩餘にして勞働者が生產すると同時に彼等より掠奪せられたるものなりと然らば資本增加すれば剩餘も亦た增加せざるべからざるの理なり然れども剩餘は何故に增加するや全部は其一部を取る者あるが故に增加すとは數理にあらざるなり資本は掠奪の報酬なりとなすマルクスの說が資本は禁慾の報酬なりとなす說に比して劣るとも優るなきの理又た以て見る可き也。

要之マルクスは經濟學者が未だ開拓せざる新天地に吾人を導けり然れども彼の道には答解に苦む難問の累々として橫るを見るなり然れば彼が吾人に致せる眞個の功績は唯是等の問題を吾人の視聽に觸れしめし點のみ然れども吾人は此事既に容易の業にあらざりしを知る吾人は問題を知るは問題を解する第一着步たるを知る也。

最後に吾人が此論に於て目的とする所は之等の諸問題が秩序的に考察せられんとする曉に至らば必ず現る可き最も普通なる眞理の大體を讀者に紹介せんと欲するに在るなり。（未完）

コオトシヤタア

小山內薰

倫敦の町外れに「コオトシィアタア」と云ふ芝居が實在してあるので御座います、「コオト」と云ふのは御所、宮殿とでも譯せば譯すので、是れは芝居の名前で御座います、所が此「コオトシィアタア」と云ふ言葉が今日の英吉利の進むだる文學者或は劇評家或は進むだ役者の間に、一つの新らしい演劇運動の名として、みんなの頭に刻み付けられるやうになつて居る、夫れは極く僅か前から始つた事で御座いまして、千九百〇四年に起つた

運動で御座います、其運動が「コオトシィアタア」と云ふ小屋を借りて始めたから、今日では「コオトシィアタア」と云ふ實在の建物の名としてよりは其新らしい演劇の場處として「アブストラクト」の名として識者の間に言ひ傳へられて居るやうになつて居ります、そこで此「コオトシィアタア」の事業と云ふものはどう云ふもので御座いますか、之れに就ては私は既に二回程筆を執つた事が御座います、一番始めは去年、讀賣新聞に「俳優グランビルバーカーの事に就て」と云ふ事を書き夫れから十一月の天長節かに「ベルト」合名の演劇と云ふ題で「コオトシィアタア」の事業の事を書きました、何れも斷片的の新聞、雜誌或は向ふへ行きまして、タマ〳〵調らべて來た人の話杯を聞きまして、書きましたから、不完全極まるものでは御座いますけれ共、其運動の目的と言ひ、趣意と言ひ、やり方と言ひ、いかにも私に意を得た事が御座いますから、そこはマア讀んでくださる方もあるかと思つて書いて見たので御座います、今日も其御話を更らに繰返へす丈けで御座います、隨つて若しあんなものでも御讀みになつた方が御座いましたならば重複する點も御座いますがも知れませぬけれ共、又あの二つを書きました後、多少讀みましたものも御座いますから、夫等の事を附加へ、同時に此倫敦の「コオトシィアタア」の事業の御話をしまして多少日本にも斯う云ふ種類の運動が起つてもよからう、又起すべきであらう、又起つた場合には同情を寄すべきものであると云ふ事を諸君に御願ひして見たいと思つて御話するので御座います。

夫れで是れは極くツイ五六年前に始めまして、運動の時期は非常に短ひ、千九百〇四年から千九百〇七年卽ち昨々年迄で一つの句切りをしまして、千九百〇七年で「コオトシィアタア」と云ふ小屋を借る事を止めまして、去年になつてから其町外れの「コオトシィアタア」からズツと出て「サボイ」から「ヘーマーケット」と云ふ芝居迄、此運動をやつて居る連中が繰出しました、今日の御話は「コオトシィアタア」に居た時の全體の概略、夫れに付ての二三の事業の實際上の御話を致さうと思ひます。

一體英吉利の今日の芝居と云ふものはどう云ふものであるかと云ふと、どうも矢張り非常に流行るのは「ミュジカルコメデー」「コメデーオペラ」と云ふやうな踊を踊つて、唄を唄つて、さうして其間に又唄で無い、臺詞で「チャーム」を致す、丁度日本の大阪俄と殆んど同じ形式のものが行はれる、さう云ふものが一番御客を呼ぶやうな樣子で御座います、夫れからモウ高尙になりまして、兎に角本當の芝居と云ふ方でも今日の言葉で、勿論昔の意味では御座いませぬが「メロドラマ」と言つて居る丁度日本の壯士芝居のやうなもので御座います、唯人を泣かすとか、笑らはすと云ふ云ふことに重きを置て居る、本當の意味の芝居、獨逸とか、佛蘭西とかスカンデナビヤに行はれる芝居は殆んど英吉利に無いと言つて宜い、其證據には皆樣が丸善抔に御出になりましても誠に大陸の新らしい脚本は少ない、ハウプトマン抔は少し譯されて居りますけれ共、四つ五つ出せば後は出ない、今迄出たものは賣り切つて仕舞ふと後は再版しない位で需要が少くない、「イブセン」の如き大立物になると先づ兎に角全集とは言へますまいけれ共、相當なものは出來て居りまして評論も盛んで御座いますけれ共、とても獨逸抔に及んだ事で御座いませぬ、さう云ふ風で御座いまして、英吉利の一般の劇壇と云ふものは先づ日本の劇壇と同じ位なものと見て大差ないと思ひます、巧い役者もありますす、道具の設備も日本よりは完全して居りますけれ共、極く一般の役者、一般の見物の赴く所は國情歷史、歷史から起つた國情を別として考へますれば、先づ日本と同じやうな好尙であらうと思ひます、夫れが爲めに英吉利の劇壇の一部分には昔から此「コオトシィアタア」のやうなものゝ事業がシバ〳〵行はれたので御座います、例へばクラインと云ふ劇評家が初めました「インデペンデントシィアタア」(獨立劇場)此建物を持つて居つたる

運動の仲間であります、其クラインと云ふ人は自分の國のビネロが書きました脚本を譯して、其金を貰つて夫れを元手として始めて芝居を引續きまして ニューセンチュリシィアタア抔も出來、夫れから今日尙續いて「ゼ、ステージソサイチー」抔あります、此「ゼステージソサイチー」の起りを調らべても始め何處かの畫人のアトリエー抔を借りて僅かな人間で始めた、夫れが或女優の好意によりまして、或劇場を借りてやる事になりました、「ステージソサイチー」の歷史を見ましてもナカ〳〵面白い。

千九百〇四年の時分にはバカーと云ふ人がコオトシィアタアの持主で御座いました、「マネージャー」はベトレンと云ふ人でありました、是れがナカ〳〵偉い人らしい、そこでベトレンとベカーの合名演藝會コオトシィアタアで外のシィアタアよりも進んだ芝居をやつて居ります、夫れと同じく「コオトシィアタア」の始まる以前は先づセキスピヤのものばかりやつて居つたと云ふ歷史が見えます、リーと云ふ持主が居りました時もセキスピヤばかりやつて居つた、さうすると茲に若い役者で當時の作者たりしバーナードショーの弟子に極く歲の若いグランビルバーカと云ふ人が……是が劇壇革命者で御座います、是れが自分の出る芝居が無い、自分の頭により、自分の技藝を現らはすべき芝居小屋が此英吉利に無い、と云ふので何處にも出なかつた、所が「ステージソサイチイ」と云ふものが出來ましたから其運動に加つて其運動の試演の度ごとに出ました、所が此グランビルバーカーは非常な進んだ頭を有つて居りながら、セキスピヤの芝居は非常に上手だ、セキスピヤの芝居を「バーカー」にやらせると巧い、そこで「コオトシィアタア」の「マネージャー」をして居りましたベトレンが雇に行つて、今度私の方の芝居に一つ出て下さらぬか、夫れに就ては「ベロナの二紳士」と云ふセキスピヤのものをやつて貰いたいと云ふ事でありましたグランビルバーカーは宜しい、さう云ふ事なら出ても宜いが、就ては畫間はマチネーを

やらして呉れ、一興行が六日でも宜いがバーナードショーのものをやらして呉れ、「カンデーラ」と云ふものをやつて見たい、夫れを畫間やらせて呉れるならば、夜は君の注文に應じて芝居をやつても宜い、そこでベトレンは夫れを承知しまして、茲に始めてベトレンとバーカーの同盟が成つた、そこで」ベトレン、バーカー、マネージメント」と云ふ名前が出來た、さう云ふ丈けの事であつて、詰りバーカーは遂に「コオトシィアタア」と云ふ立派な小屋を乘取つて仕舞つたのであります、此起りは丁度佛蘭西で千八百八十七年頃に「テヤトルリーブル」(自由劇場)「アントアール」と云ふものを掛けました、夫れの運動と能く似て居ります、此「テヤトルリーブル」の起りました時にも會員を募つて豫約の見物を募つて何時何日にどう云ふ曲をやるから座敷を先きに買つて呉れと云ふ事でやりました、さて芝居を開けて見ましたが、夫れでも「アントアール」の事業は思ふやうに行きませぬ、大抵三日位で芝居の客が丸で落ちて仕舞つて出來無い事になつたさうで御座います、そこで其「アントアール」「テヤトルリーブル」の方の德であつた事は詰り脚本の檢閲がなつた、夫れが非常な長所であつたと云ふ事であります。

今「アントアール」の方の「テヤトルリーブル」の事業と「コオトシィアタア」との事業との特徵の共通なものを較らべますと、先づ第一が役者の演戲の方法が非常に自然である、此自然であつたと云ふ事は何でも無いやうな事で御座いますが、英吉利あたりの今日一般の芝居の技藝抔は餘程不自然なものに傾いて居るらしい、然るに斯う云ふ運動の方の技藝は非常に「ナチュラル」である、第二には非常仕組が巧い、從來行はれて居つたやうな仕組の巧い芝居、「ツエルコンストラクテッド」と云ふ事であります、脚色が巧かつた、さう云ふ芝居に對して反抗して出たのであります、是れが第二であります、第三は興行の日數が非常に短い、第四は若い新らしい脚本家を此運動の圍りに集めたと云ふ事であります、此運動が出來た爲めに新らしい脚

本家が方々から現らはれて此園りに集つて來た、此二つは「アントアール」の「テヤトルリーブル」と「コオトシィアタア」との共通な點であります、夫れで從來の演技の方法は非常な人爲的所謂お芝居と云ふものに傾いて居つた、所が此今の「コオトシィアタア」の方の役者になりますと臺詞廻しとか手振り足振り夫れから感情の現らはし方、等が非常に人間と云ふものに近付いた、自然で、非常な寫實である、そこで此バーカーが斯う云ふ風な運動を始めるやうになりましたに就ては先程申し上げた通り英吉利では「コオトシィアタア」と「ニウーセンチメントシィアタア」と云ふもの色々ありまして、今日になつた「アントアール」から見ると樂であつた、道が滑らかであつた、「アントアール」の始まる時には世間では何も知らなかつた、バーカーが始めた時には少しも世間ではイプセンの芝居の法則卽ち四方の壁の一方を切拔いて室内を見せると云ふ芝居のやり方を世間の人はやつて居つた、アントアールのやる時には役者が見物に脊中を向けると笑つたと云ふ事であります、さうしてバーカーは此「コオトシィアタア」に這入りましてさうして自然の演技を始める事になりました、是れを始めました時に英吉利の一部の觀客が見て驚いた、倫敦にも斯う云ふ役者が居るか、倫敦の役者は存外藝が巧い、と言つて驚いたさうであります、どう云ふ譯かと云ふと夫等の役者は決して新らたに生れて來たのでは無い、以前から倫敦に居て倫敦で芝居をして居つたけれ共、「コオトシィアタア」に限つてやるので、玆に新らしい外國から名優でも來たやうに英吉利の人は思つた、其理由は卽ち演技の方法が從來のやり方と丸で違つたからであります、例へば外の芝居へ行きましてやつて居るのを見ると實にくだらない役者でも「コオトシィアタア」に來ると際立つて見へる、非常に巧く見へる、其演技の方法はどう云ふ事であるか、先づ第一は其芝居全體の細かい點迄非常な注意が到つて居ります、是れは何でもないやうだが、今日日本の芝居抔で見ても例へば、そこへ出ずる

所の下女とか下男とか夫れから注進に來るものとか、さう云ふものは非常な不注意に取扱つて居る、唯モウ間の繋ぎ或は仕出しと云ふ意味で使つて居る、然るにグランビルバーカーはさうで無い、どんな細かい點迄も非常な注意を拂つて居る、隨つて稽古が非常に長かつた、詰り世間へ品物を出します前に非常に嚴しい一座の「コンモンセンス」と云ふ批評に掛けて、さうして後に始めて世間に出しました、デ今の細かい點に注意した事と全體の調和を取る事に注意した、一部分丈けは際立つて明るく見へて一部分は極めて曖昧であり、一部分は暗らくして一部分が明るいと云ふ事無く、全體に注意を拂つた事であります、然らばさう云ふ風な演技の方法の一番根本の考へはどう云ふ所にあつたかと云ふと、「バーガー」の考へでは人を感じさせるには自ら感じなければならぬ、自ら感ずるには自然でなければならぬ、と云ふ事を標準にして進むだらしい、要するに芝居と云ふものは、自分の感情を人の感情に訴たへるもので御座いますから、自分が感じなければ人に感じを起さす事が出來る理由が無い、自分が感ずると云ふのは自然でなければ感ずるもので無い、不自然に感じさせやうとした所で迚も感ぜらるゝもので無い、卽ち一つの役を受取る時には其役を十分研究して一つの役をスッかり同化する所の人間となつて始めて感じが出て來るのである、其感じが自然に出て來ると云ふ所から夫れが外の人に傳はる、分りきつた理でありますけれ共、是れを行つて居る役者は誠に尠ない。

其次ぎに御話する事は役者を非常に能く選んだ、例へば一つの役が御座いますると、其役に一番適當な役者を同伴して來る、其役者は一流でなくとも、二流三流或は下つて五流位でも宜い、一つの役がある、脚本がある、さうすれば或役に適當であると思へばどんな下等な役者でも夫れを引きずつて來てやらせる、さう云ふ方針を取つて居るやうであります、バーカーの如きも自分にはまる役かあれば出ますけれ共、はまる役がなければ出な

い、斯くして全體の自然の聯絡感情が少しも不自然で無く現はれるやうに注意したのであります、夫れで普通役者を主とする興行では脚本を選ぶに倫敦も、日本も同じ事であります、一流の役者がある、其の役者が色々な脚本をやりまして、さうして非常に自分の得意な十八番の藝がある、例へば煩悶する事が得意であると、其の煩悶と云ふ事を見物に觀せるに都合の善い場所がありますと、其の脚本を用ゐる、外はどうでも構は無い、結末がどうならうが、始めがどうならうが自分の得意な藝を出すに便利なものがあれば夫れを用ゐて仕舞ふ、さうして、或場合には自分の藝を十分出す爲めに人の役を損ひ、又芝居全體の筋を壞し、全體の感情を取違へても少しも構はぬと云ふのが一般に「アクターマネージャー」のやり方であります、日本でも殆んど同じやうであります、所が此グランビルバーカーの「コオトシィアタア」では決してさう云ふ事は無い、何處迄も自然に且誠實に演ずる事の出來ない脚本は決して用ゐ無い、一

且脚本を選んだ以上は最も適當な俳優を最も適當な役に當嵌めてやる、さうして必ず其中の位地の高い役者が善い役を取るとは極らない、非常な立派な役者が下男をやつた孫と云ふ例が御座います、夫れはエドマンドグンと云ふ役者がありまして、夫れはバーナードショーの「マインエンドバーバー」と云ふ中のストレカーと云ふ大事な役をやつた、次ぎに英吉利の若い作者が書きました、放蕩息子の歸宅と云ふ所に出て來る下男、是れは殆んど臺詞が五行か六行丈げ舞臺へ出てやる、二分か三分で其役をやつたが是れが非常に成功したと云ふ話があります。どうして成功したか、決して外の役者を押付けて自分丈けがやり過ぎた譯ではない、詰り作者が與へました「ヒント」に依つて、十分下男と云ふ役を活躍した、其短い臺詞を活躍し、僅に舞臺に出て居る時間を十分利用して其下男の特色を發揮した爲めに其下男が出て居る間は殆んど見物の目が下男丈けに注がれたと云ふ話があります、矢張りバーナードショーのもので「キ

ヤプテンブラッスバウンヅコンバセーション」と云ふ中にコロッオーと云ふ惡漢、是等は詰らぬ役で、裁判所に僅かの時間出る、夫れをマイキヨリアビルと云ふ役者がしました、さう云ふ例は一二に過ぎませぬが、其やうな下らぬ役でも立派な役者がやつて、さうして其作者が書いた考へを隅の隅まで舞臺に活躍することに努めたのであります、そこで斯う云ふ風に善い役者が下らぬ役をやると云ふ事はどう云ふ利益があるかと、一面から見ると斯う云ふ利益があります。

今日の日本の芝居抔を見ますと甚だ無人な芝居になると重立つたものが一人か二人で、後とは下らぬ奴がある、さうすると見物は唯モウ一人を見る、例へば伊井なら伊井を三時間も四時間も見ねばならぬ、外の役は目に這入らぬから疲れて仕舞ふ、飽いて仕舞ふ、然るにバーカーのやり方は是れに反して各自が巧くやるから、あつちへも目が行き、こつちへも目が行くから飽き無い、不自然な見物の仕方が起らないやうになつて居るのであります。其次ぎに申し上げたいのは道具の事であります、「コオトシィアタア」の道具と云ふものは非常に少ない、此「コオトシィアタア」の事業を評して居る人が言ひましたには、演技は役者の演技の方法が巧ければ、其非常な貧しい背景も本當のものと思はせる事が出來る、併しながら如何に立派な背景でも下手な演技も本當らしくする事は出來ないと云ふ事を言つて居ります、夫れでマア「コオトシィアタア」の背景大道具と云ふものは非常な粗末な詰らぬものであります、唯俳優の演技に依つて其詰らぬ背景も非常に活躍して來るやうになつて居るのであります、夫れは一面經費の點からも來て居ります、殊に此「コオトシィアタア」では希臘の芝居を三つばかりやつて居ります、其やります時には殆んど日本の昔の芝居のやうに小屋を一つ置いて、其脇に木を置いて後ろに景色丈けの幕を下げる、と云ふ單純な道具で非常な成功を收めたと云ふ事であります、希臘の芝居を「コオトシィアタア」がやりましたものはバーナードショウ

の芝居を紹介しましたに就いて盛んである「バーナードショー」を十一して居ります、「ユーリピデス」の芝居を三つ紹介して居ります、此「グリーキドラマー」をやりました意味は日本の劇壇に直接關係がありませぬから私は申しませぬ、此「コオトシィアタア」が「グリーキドラマー」をやります遣り方は極く簡單に言ひますれば、詰り希臘時代の心持になつて、さうして希臘時代の芝居を見て貰うと云ふやり方でも無く、又「コーラス」と云ふやうなものを出して希臘芝居の面影を其儘に見せると云ふ譯でも無い、卽ち希臘詩人が吾々現代の人間に向つて居芝を書いて見れたやうにユーリピデスの脚本を取扱つて、飜譯した人も、演技の役者も其積りでやつたと云ふ事であります、是れが將來日本に向つての芝居の役者に取つても參考になる事のやうに思はれます。

夫れから脚本で御座います、脚本の選み方は一番此「コオトシィアタア」に取つて肝腎で御座います、此「コオトシィアタア」が今日名を成しました所以は脚本の選擇にあつたかと思はれます、從來の脚本と申しますると、一番重要な事は「プロット」卽ち脚色であります、筋であります、筋の組立が良く出來て居なければ、如何に人物が活躍して、感情が溢れてもそれな脚本は駄目だと云ふ事は昔の人の言ふ事であります、今でも其說は一部に行はれて居ります、例へば序幕丈けを見ますと、詰りそこに出て來る人物卽ち芝居に出る人物がスッかり分つて仕舞ふ、其脚本に現らはれる人物が過去隨つて將來も殆んど想像が出來ると云ふやうに出て來た人物の性格なり、感情なりを悉く序幕で知つて仕舞ふ、と云ふ事は脚本家の腕として居つたが、今日はさうでない、近世の劇の書方は序幕で、或る人物が出る、其序幕を終つて、序幕に出た人間に就て見物が或考を抱く、其考へは二幕目に變つても宜い、三幕目で變つても宜い、唯最後の大詰になつて、初めてどう云ふ人間であつたかと云ふ事が分つても宜い、さう云ふやり方であります、昔のやり方はいけない、序幕か二幕目で其

人間を極めて仕舞はねばならぬ、で昔の芝居は序幕や二幕目でモウ分る、夫れが三幕目も四幕目となつては詰らなくなつても構は無い、一二に力を注ぐと云ふ主義であつた、然るにバーカーの方の脚本幷びに「コオトシィアタア」を取り圖んで居ります若い英吉利の脚本作者の考へはさうではなかつた、其「コンベンション」を破つて卽ち人間の性質「ヒューマンネーチュアー、キャラクター」と云ふものを明瞭に書き現らはして居れば「プロット」抔はどうでも宜い、無理に拵へた「プロット」抔は無くても宜い、感情が十分に現らはして居れば「プロット」抔はどうでも宜い、無理に作る、必要は無いと云ふ趣意で御座います、そこで「プロット」と云ふものは一番出來る丈け小さく考へ、出來る丈け「プロット」と云ふものは縮めて、其方の方を「キャラクター」の發展と感情の表現と云ふものに盡しました、

さう云ふ風に申して參りますと、夫れでは段々に小說と云ふものと脚本と云ふものが同じになると云ふ考へを持たるゝ方も御座いませう、又私が考へてもさう云ふ風に思はれます、併ながら芝居には一つのどうしても逃げる事の出來ない束縛が御座います、唯ダラ〳〵と幾幕も十幕も二十幕も續けて、一人の人間の「キャラクター」が發展されても芝居にはならぬ、芝居の許す範圍は極つて居ます、例へば音樂の譜のやうなもので御座いまして、音樂の譜が矢鱈に、無暗に長くても決して立派なものでは無い、一定の束縛と云ふものはどうしてもあるのであります。夫れで今でも小說家が脚本を書きますと其範圍を脫して、日本抔でも新らしい脚本では結構なものがあります、然かも局部々々には脚本の氣質からいつて舞臺の「テクニック」から言つて巧いものが御座います、けれ共一役者で二時間も三時間も出さねばならぬ事が芝居にある、詰り芝居と云ふものゝ時間を飛越へて居る、夫れは小說として取扱ふ事は出來ても脚本として取扱ふ事は出來無い、能く近頃言ひますが讀む脚本とする脚本と云ふ事があります、讀む脚

本と云ふ言葉が西洋に御座います、獨逸にも御座います、英吉利には讀む脚本と云ふ事が無くても演ぜざる脚本と書いてあります、「アンアクテッドドラマー」と云ふ事である、自分の考へでは讀む脚本と、する脚本と云ふ區別は無いが、丁度演奏せざる曲譜が無いと同じく實演せざる脚本はない事だらうと考へます、苟くも脚本と形をなした以上は實演の出來ないと云ふ法はない、實演が出來なければ脚本ではなくて小説であります、あの「シニッツレル」と云ふ「ウキン」の神學者が書きましたものは短篇小説であります、鷗外先生が此間正月の新天地に御譯しになつた「クリスマス買入の」如きは脚本では無く一つの短篇小説であります、

詰り今日日本でやつて居るやうな脚本と云ふのはあゝ云ふ種類のものと思ひます、何處迄も脚本は舞臺に掛けなければならぬものと思ひます、隨つて束縛が生じて來る、其束縛を越して且つ筋を無視してキ「ヤラクター」の段々發展するのを望むと云ふ丈けではいかぬのであります、夫れにつきまして詰り「コオトシィアタア」と云ふものは今迄の「ドラマ」と云ふ言葉の意味を擴げた譯になります、以前は「プロット」に重きを置いて、「コンストラクション」が能く出來なければ立派な「ドラマ」では無い、所が「プロット」を「ミニマム」にして唯人間の「キャラクター」が人間に分つて行くと云ふ方に「ドラマ」と云ふ名を付けるやうになつた、けれ共、彼等の所謂「ドラマチック」と云ふ言葉は唯面白いと云ふ意味では無い、又同時に「アクション」を擔ふたので、働作の無いと云ふものでは無い、所謂假白……從來は唯假白で目に見へる仕打に重きを置いて來ましたけれ共、今日は内部の精神、人間の心の機關、心の變化に注意して、心の働きに見物も注意し、作者も意を注ぐやうになつた、さう云ふ風な意味で以て此脚本を選んで參りました、「コオトシィアタア」は隨つて英吉利の極く進んだ作者の脚本を選ぶ事になりました、夫れで前申しました、

バーナードショウのものを、十一程やつて居ります、此バーナードショウに就きまして、私は悉しく御話したいが、今日は止めましてバーナードショーで無い、未だ世間でも注意を拂はは無い、一つ二つの若い作者……コオトシィアタアの圍りに集つて來る、一二の作者の作に就きまして、短い梗概を御話して凡そどんな事をやつたと云ふ丈けのお話をして今日のお話を終らうかと思ひます。

そこで「コオトシィアタア」で選びました脚本は今のバーナードショーのものゝ外にハンキンとかハーコートとかゴールスウオーズと云ふやうな若い人のものをやつた、さう云ふものが無い時にはイブセンのものハウプトマンのもの、其外マーテルリンクのものをやつて居ります、さう云ふ風に自分の國に新らしい脚本が無い時には外國のものをやつて居ります、

そこで英吉利の新らしい作者はどれ丈けの程度のものかといふと、既に「コオトシィアタア」でやつて居る脚本抔は當つても見ませぬ、色々な本を見ましても、向で出版になつて居らぬやうであります、併し「コオトシィアタア」の連中は「ピネロ」「アーサー」「ジョンス」と云ふもの丈けは感心して居るのでバーナードショーを何處迄も擔ぎ上げて、夫れから外の若い作者に手を延ばして居ります、其中の一つの作者にハンキンと云ふ人があります、其人の書きましたものは、放蕩息子の歸宅……道樂息子が家に歸へると云ふので、此作の非常に良い事は芝居するに適するので何故と云ふと芝居に現らはした出來事に、幷に感情總ても仕打が側の人に分る、誰にも解釋が出來る、誰にも經驗がある事である、芝居の筋はどう云ふ筋であるかと申しますと、ジャクソンと云ふ人の家で夜會がありまして、夜會が終つた所へ下男が飛込んで參りまして、若旦那が今門の所で腹が空つて氣を失つて倒れて居る、さう言つて參りました、其若旦那と云ふのは非常な道樂者で仕方が無いから一千パウンドの金を附けて追ひ出して、埃地利に行つて居る筈

の息子であります、夫れが倫敦へ歸つて門の所に倒れて居る事を聞いた、家のものも流石氣の毒になつて是れを擔つぎ入れまして……擔つぎ入れて皆で呼びましたけれ共、殆んど氣を失つて居りますのでどうしても生返へりませぬ、」夫れ〳〵藥をやつて家のものは奥へ這入つて居る、夫れに息子は机に向つて寢て居ります、さうすると道樂息子がムク〳〵と起きて體の形を直して又以前のやうに死んだ眞似をして居る、家中のものは大きな聲を出して、息子を呼び生けやうとするのが序慕の終りで御座います、で此息子が何故そんな事をしたかと云ふと自分はモウ一千パンドを使つて仕舞つた、どうかして又自分はいやでたまらず家は出たけれ共あの家へ歸つて暖つたかい火の前で暖い御飯を食べて柔らかい着物を着たい者だと思つて歸つて來た、けれ共並大抵の事ぢや入れ無いから、芝居をしたのであります、門口で死んだもの、眞似をして入れて貰らつた、夫れからどう云ふ事になるかと五六日ブラ〳〵遊んで始終二言目には己は何にも出來ない人間だと言つた、兄弟の事でもあり、子供の事でもありますから、非常に可愛がる親爺と姉樣は、寄るとお前は是から一體何をする積りであるか、何ともしない積りだ、何かさせる積りかと云ふ事を言ふて仕方が無い、さうしてブラ〳〵遊んで居る、居つては外へ出て洋服屋へ行つて色々注文して書附を皆な御父樣によこす、夫れでお父樣が最後に怒つて貴樣再び出て行け、一刻も置けないから出て行け、息子は出て行つても宜いけれ共、折角出て行つても此近所の工場にでも出て居つたらどうする、御父樣は折角代議士を志望して居られた、貴方の家の前の製造所の小さな工場で息子が居つたら御父樣の名譽になるだらう、折角代議士にならうと思つてもあの人の息子が職人をして居ると言はれては代議士になり損ふだらうと言つて居るので親爺も追出す事が出來ぬ、夫れから親爺の方から折れて出る、一體どうしたら宜い、夫れぢや仕方が無い一千パウンド

やるから、再び此家へはお前の顔を見せて呉れるな、夫れは一千パウンド貰ふのは宜いけれ共、埃地利に行つた所で又無くなれば又お腹が減つて御宅の前へ來て倒れねばならぬ、一千パウンドではいけ無いから、毎年二百五十パウンドを送つて呉れ、仕方が無くて、其約束で第一回の「チッキ」を貰つて出て行くと云ふのが御終いだ、皮肉のやうな妙な芝居でありますけれ共、夫れ丈け御話しなすと實に下ら無い芝居で、取扱つて居る問題も下らないやうに思ひます唯此芝居の大層宜い所は脚本の全部が道樂息子と云ふ者に少しも吾々が反感を起す事が出來ない、「實に己には何も出來ない、人間」のやうに思はれる、あの人間を働かせやうとしても仕方が無い、氣の毒だと云ふ感じが起る、いかにも何にも出來ない、弱さうだァ、やつて全く一年二百五十パンドづゝ貰つて居らねば世の中に生きて居る事が出來ない、と云ふ事を思はせる、其作者が偉いのであります、是は幾らか道德的の臭味を帶びて居るもので御座いますが、是れにモウ一つ似たものでゴールスヲーズと云ふ人が書きました「シルバー！ボックス」（銀の箱）と云ふのであります、此銀の箱と云ふのも矢張り罪人が二人出ます、同じ罪を犯して居ります、片方の罪人は、やくざな道樂者片方の罪人は誠に穢たない穢苦しい職人で御座いますけれ共、決して憎むべき奴では無い、そこで其やくざな道樂息子の罪は宥されて職人の罪が罰せられると云ふ芝居であります、其筋を申しますと、ジョンハースビックと云ふ人の食堂であります、そこへ息子のヂャックと云ふ男が夜十二時から一時頃泥酔になつて歸つて參ります、そこで後から變なジョンスと云ふ職人の男が附いて來る、息子樣は酔ぱらつて家へ歸へります、門口の戸を開けやうと思ふけれ共、鍵の穴が見付からぬ、手探りをして居る、氣の毒になつて往來を通り掛つた、ジョンスと云ふ職人が戸を開けてやつて家迄つれて來た、恩人で御座います、其息子が部屋へ歸ります時に小さな袋を持つて居る、其袋をクル〳〵廻して喜んで這入つ

た其袋は金が這入つて居る袋で、自分は其晩ある女の所へ酒を呑みに行つて、女の持つて居る巾着を自分が巫山戯のやうに盗んで來た、さうして夫れを喜んで振り廻しながら這入つて來た、すると何時迄もジョンスと云ふ職人が居るから何か禮をしやうと思ふけれ共、自分の懷中には一文も無いから、酒でも呑めと言つてウイスキーを自分も呑み、職人にも呑ませる……ウイスキーを呑んで居る、中に職人の氣が變はる、けれ共元々惡い人間ぢやーありませぬ、いかにも職を求めても職を得る事が出來ない、實に社會と云ふものはつらい、みじめな所だと云ふ考へを持つて居る、幾らか世の中に對して反抗的の怨みを抱いて居る、決して憎むべき人間ぢや無い、夫れが困る所から、ッイ盗み心を起し、どうだらうか此息子樣は醉つぱらつて何を言つても分らない、と云ふので今の女の金の袋、何ぞ知らん息子が女から盗んで歸つて机の上に置きました其巾着と、銀の卷煙草入の箱を持つて其家を出ました、すると職人の女房がそこの家の……今の家主の家の日雇女になつて居る、翌る日ジョンスの女房と其ジョンスと二人が拘引される、所で亭主は其時に頑として罪は己れ丈けにある、決して女房には無いと云ふ事を言ひますけれ共、巡査が之れを聽かぬで連れて行つて仕舞ふ、其中に中に盗んだ袋に付て盗まれた女が之を訴へる、自分の巾着を盗まれたと言ふ、夫を聞きなしてヂャックのお父さんが驚いて自分の息子が盗賊して居ると云ふ事を聞いて、どうかして此不名譽を雪がねばならぬと言つて親爺が金錢で償ふて其事件を其儘に葬つて仕舞ふと思ふけれ共、裁判所では許しませぬ、何處迄も此事件を進行しなければならぬと言つて、何處迄も訊問しました、さうして遂にジョンスは巾着と銀の箱を盗んだと云ふ罪で牢屋へ入れられますけれ共、息子の方は道樂の爲めに女の所から金を取つて來たのだらうと云ふので宥るされて仕舞ふ、息子は巾着を女から取つて却つて、其巾着をば職人が取つた爲めに職人の方は罪に落ちて其息子は宥るされたと

云ふ丈けの話であります、是れ抔も今の社會組織に對する一種の皮肉で御座います、此二つは餘程どつちかと云ふと筋の有る方で御座います、此「コオトシィアタア」の運動を始めました、グランビルバーカーが自分で書きました芝居「ボエゼ、インペダンス」ポエゼー家の財産の事を書いた、此芝居は殆んど無脚色であるが、何處で芝居が始つたとも、何處で終つて居るとも分らぬ、詰り或る家の親爺が自分の家の金で投機をやつて大變財産に穴を開けた、どうかして溜めやうと思つて、なけなしの金を出して投機をやる、又失敗をする、其息子が後を引受けて此穴を埋めやうとして、同じやうな失敗をする、夫れが一二代繋がつて居る丈けの事を書いてあります、何處に脚色があるか分らぬ、唯此バーカーと云ふ人のはバーナードショーの流れを汲んで、さうして無脚色の唯殆んど話だけで續いて行く、其間に一家族の人間が現はされると云ふ所に重きを置いて非常に大勢人が出ます、十何人か家族が出まして、一人々々が悉く活躍して居るさうであります。

夫れから今の外國の芝居で御座います、「コオトシィアタア」でやりました外國芝居、卽ち「マーテルリンク」の「アクラベルエ、セルベット」と云ふ二人の女が一人の男を戀する芝居、一人の女が身を投げて二人が病ひになるだらうと言つて、マーテルリンクの理想から言ひますと能く出きた芝居だけれ共、英吉利では餘り評判が能く無い、夫れから「ハウプトマン」の「スイッベル」病院にてと云ふ芝居、夫れはラーデマッヘルと云ふ新聞記者が文壇に敵がある、其ラーデマッヘルが病院で死掛つて居る、どうかして自分の文壇の敵に死ぬ前に會つて連罵して死にたいと云ふので自分の敵に合はして呉れと云ふ事を賴んで居る、ラーデマッヘルは何を言はかとう思つて文壇の敵の妻君が昔は己の戀人であつた、さうして御前よりも今尙己を戀して居ると云ふ事を言つてやる、さうして仇を打つて死にたいと云ふ事を言ふ、そこで御醫者樣を周旋して、やうやくラーデマッヘルの文壇の敵

を連れて參りました、愈々敵が來て目の前に來るとモウ體が弱つて、今自分の仇を打つと云ふ氣持もなくなつて、何も言はずに死んで仕舞ふと云ふ芝居で御座います、夫れから後は皆樣御存じのイブセンのアイルドダッキ」「ハウプトマン」の泥棒の喜劇で御座います、夫れは英吉利の方で「シーブスコメデー」と云ふ名前であります、是れも非常な成功を收めた、其外は殆んど、バーナードショーの紹介に全力を盡くしたと言つて宜い。

そこで斯くの如く「コオトシィアタア」の事業は千九百〇四年から七年迄僅か四年間に渉つた仕事でありますけれ共、斯く迄短い時期に斯く迄變化のある色々の芝居、進むだ芝居を紹介した運動は他國は知らず、英吉利に於ては珍らしいのであります、恐らくは英吉利の人は此「コオトシィイアタア」の事業に一顧の注意をも拂らつて居らなかつたのであります、獨逸の近頃、カンメルステール」と云ふ方法を立つて進んだ方の芝居があつてマーテルリンクのもの抔やつて居る青年の芝居があるさうであります、夫れなどは向ふへ行きました人の話を聞くと迎も往來抔でカンメルステールは何處であると言つて聽いても誰も知らぬ、夫れと同じくコオトシィアタア抔も「ウーデンボロー」で、英吉利人全體の注意を引かなかつた、併ながら如何に劇壇一般の人の注意をしなかつた、運動でも其運動がどの位眞目面なものであり、どの位の意義のものであつたかと云ふ事を後世にも言ひ傳へて夫れが又外國に如何なる影響を致し、如何に幹を出し枝を出し實を結ぶかと云ふ事は測知る事が出來ない事と思ひますから、斯んなつまらない御話で一般から見るとつまらぬ運動と御考へでは御座いませうけれ共、併し此運動が日本の劇壇に取つては世間から注意され無い運動でも非常な事と思ひますから、自分の參考の爲めに調らべて居ました事を御話しまして諸君の靜聽を穢した譯であります。（完）

三田文學會に於て）

新著批評

ヒルト教授支那古代史

田中萃一郎

The Ancient History of China to the End of the Chóu Dynasty. F. Hirth 教授著一九〇八年新約克コロムビア大學出版部發行

通報の編輯主任シャヴンヌ教授はバーカー教授の諸夏原來と併せて本書を批評せるが、本書の長所は先秦時代數千年の歷史を、各時期に分ちてその特徴を甄別し得たると支那民族と角逐せる塞外民族の之に及ぼせる影響を指摘し得たると、幷に有形的實用的方面に於ける文明進歩の跡を繹ね得たるとの、三點にありと云ひたるのみにて、細評を試みず。然るに史學雜誌の新著梗概には本書に就て、「傳說時代の諸帝の如き古代支那思想の反影せるものとなすも、黃帝の如き尙ほ現實的のものとし、支那文化の基礎を以て、從來支那學者間に行はれたると同じく、この時代にありとし、堯舜又明に歷史的人物となすが如し、これ我國先輩學者の此等諸帝を以て、唯儒教思想の反影として、史的事實としてとらざるとその說を異にせり……尙ほ氏は商及殷の諸帝が、其の名を干支にとれるは、恐らくはその生年に據れるものなる可しとなせるが如きは趣味ある見解と云ふ可し」と評せり。

余が本書を一讀するに至れるはこの紹介の言に動かされしが爲にして、而して之を一讀するに及びて更に詳細に之が內容に就て記述するの無益の業にあらざるを感ぜり。

本書はヒルト教授がコロムビア大學に招聘せられてより、四學年間一般の學生に向て試みたる通俗的の講義より成れり、第一章は神話的口碑的と題し、黃帝時代の文物はバビロニアの文明の餘波に出でたりとのド・ラクーペリー教授の所說に對し